

令和6年2月8日(木)(R5第45号)

松ヶ丘小学校には、「通常学級」、特別支援学級の「ひまわり学級」、そして通級指導教室の「ことばの教室」があります。第45号では「ことばの教室」を取り上げます。

「ことばの教室」には、発音の誤りや吃音がある児童が週1回(45分)通います。最初に「通級指導教室」と記したように、本校の児童だけでなく、近隣の学校からも「ことばの教室」に通ってきます。

担当教諭は3名で、個々の課題にあった学習を個別に行います。担当教諭は、子どもの幸せを考え、対話力を育てることを目指しています。

個別学習において、発音に誤りがある子に対しては、まず、口や舌の体操をして、口や舌を滑らかに動かす練習をします。正しい音を聞き分けることができるようになったら音づくりをします。舌の位置、呼気の出し方、口形などいろいろと気を付けていくと、正しい音が言えるようになります。その音を使って、単語や音読、会話の中で正しく言えるようになると学習を終了します。

吃音を持った子に対しては、吃音の歴史や基礎知識についてまずは知ってもらいます。そして、自分の吃音とどのように共生していくかを考えます。

また、吃音がある子のグループ学習も行っています。学校や学年も違う子が集まり、吃音について考えたり、思ったりすることを、ことばで表現します。

仲間同士だからでしょうか、グループ学習では安心して話すことができているようです。仲間が話したことに共感したり、工夫をしていることを伝えたりする良い場になっています。今後も、吃音について話し合い、対話を重ねていきます。

自分の思いを表現することの一つに「吃音カルタ」があります。カルタを作り、仲間を紹介したり、みんなで遊んだりします。

いくつかを紹介します。

『どもっても いろいろな仕事に つけるんだ』 (4年)

～どもる人が就いている職業について調べてみると、話す仕事であるアナウンサーや落語家、俳優などにもなっている。どもっていてもやりたい仕事に就きたいと思う～

『言いたいことは どもっても 伝えたい』 (3年)

～どもる話し方にではなく、話している内容に注目してほしい。言いたいことを聞いてくれたり、伝わったことが実感できたりしたときは、とてもうれしい。～

「ことばの教室」で学んだことを将来に生かせるように通級児童たちは頑張っています。

※今回は、「ことばの教室」の先生方と協力して書きました。